

戦略・物流・国際
関西・夢洲・万博・IIR

夢洲の物流対策着手

懇談会設置 万博・IIR対応 議論

【関西】関西の産官学で構成する国際物流戦略チームの第31回幹事会が4日、大阪市内であった。大阪港の夢洲地区について、2025年開催

の大阪万博や誘致が進められているIIR（統合型リゾート）と、既存の夢洲コンテナターミナル（DICT）との物流面での課題共有や解決に向け、関係者で構成する懇談会の設置を決めた。

し、地元港運企業・団体や阪神国際港湾会社、近畿運輸局、近畿地方整備局、大阪市港務局などで構成する。

DICTは大阪港の主要ターミナルだが、ゴールデンウィークなど長期休暇前後にはゲート前車両の渋滞が発生している。夢洲では大阪万博開催に向けて今後工事が本格化し、同時期にIIR誘致も進められていることから、一般交通が港湾物流に与える影響が懸念されている。

懇談会で情報交換、共有を図り、個別の取り組みの参考とする。具体的には、ゲート前渋滞の現状や課題、万博会期中の港湾物流への影響のほか、2020年の東京五輪・パラリンピックでの東京港の取り組み、夢洲地区での取り組みなどを掲げる。近日中に第1回会合を開く予定。

設置に際し、事務局からは第30回幹事会や第15回本部会合で夢洲地区での物流を検討するワーキンググループを置くよう意見があった経緯を説明。またターミナル周辺の渋滞状況についても調査結果が示された。

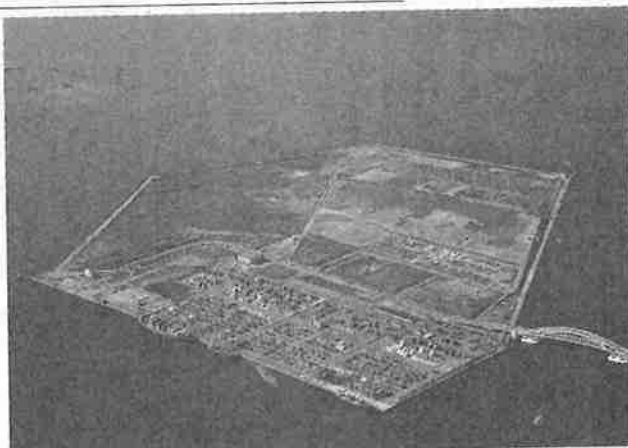
調査ではDICT周辺の渋滞状況が空コンテナ搬入の待機車列は最大5・2キロ、実入り・空コンテナ引き取りは2・6キロに及んだ。また同チームが行ったアンケートでは、本船入港日のコンテナ搬出入車両の渋滞が慢性化しているなどの回答が寄せられた。

幹事会では大阪市港湾局の田中利光局長が発言し、DICTの年間処理能力が現状90万TEUと港の中核を成し、3月に改定された港湾計画でも20年代後半の同港の予想コンテナ取扱量約270万TEUに対しDICT

万博・IIR対応 議論

万博・IIR対応 議論

万博・IIR対応 議論



港湾関係者で懇談会を開き物流対策を議論（写真は夢洲地区）

を約140万TEUに想定していることに言及した。

その上で田中局長は市として今後道路、橋梁の拡張を進める計画があることに加え「国が開発を進める新・港湾情報システム（COMPAS）の導入も考えている」と述べた。他の幹事からは待機車両が港の外にまで達していることを踏まえ、港外の道路整備も必要との意見が出た。

幹事会では医療品や農水産品の輸出拡大に向けた冷凍冷蔵輸送のクールドチェーン（低温流通）整備についても議論した。このほか、阪神港などの利用促進を図る「関西総合物流活性化モデル」について、一定の目的を果たしたとして、休止する報告もあった。